

430) 葬式

お得意先の犬竹常務のお母様が亡くなったとかで、我輩は社を代表して町屋の斎場まで葬儀に行くことになりました。折悪しくその日は雨が降っており、斎場まで着くともう予定の開始時間をだいぶ過ぎていました。我輩は急いで受付で香典をおくと、記帳を済ませて、係の人に案内されるままにお釜まで行って、みんなと同じようにハンカチなど握り締めて、失礼のないようにずっと下を向いていました。幸か不幸かかなり混雑しており、お得意さんには会うこともなかったのです。おかげで「このたびはご愁傷様」だの、何だのかんだのと、ご挨拶をせずに済んだのではありますが、帰り際、大役を果たしてホッとして、会場の全体をよくよく見渡すと、どうも我輩が受付をしたのは、お得意様となりた場所でありまして、そこは『大竹家』となっているではありませんか。犬竹と大竹、なんでこのような紛らわしいことになってしまったのでしょうか。葬儀屋さんを恨まずにはいられません。しかしこのような場合、「間違えたので香典を返してほしい」とは、ついに我輩も言い出すことができずに、会社の3万円を大竹さんに寄付してしまったのであります。ということで済みません、犬竹常務！決して悪気でそのようにしたのではありませぬので、どうかこの件は平にご容赦、お許してください。